

普及センターだより

土 浦



令和8年3月18日 No.52
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 029-822-7242
FAX 029-822-7370
URL https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00_index/index2018.html



写真1 サツマイモ基腐病により収穫皆無となったほ場



写真2 本ぼでのなり首側からの腐敗

写真出典：

生研支援センターイノベーション創出強化
研究推進事業(01020C)および戦略的ス
マート農業技術等の開発・改良(SA2-102N)
令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐
病の発生生態と防除対策」より



写真3 茎に生じた微小な黒粒

サツマイモ基腐病対策の徹底を！

サツマイモ基腐病(もとぐされびょう)は
かび(糸状菌)が原因となりイモの腐敗や枯
死を引き起こし、産地に壊滅的な被害を及ぼ
す重要な病気です(写真1)。近年では茨城
県でも発生し、まん延防止のため26ヘクタ
ルの消毒(イモの処分)が行われました。
防除対策と早期発見のための病気の特徴を
紹介しますので、産地への侵入と定着を徹底
して防いでください。

●防除対策

ポイントは、「持ち込まない」「増やさない」「
残さない」の三点です。茨城県では基腐病
の封じ込めに成功していることから、「持ち
込まない」ことが最も重要です。茨城県での
発生は、感染の疑いのある苗を県外から持ち
込んだことが原因と推測されています。対策
としては、種苗店などで販売されている健全
な苗を使用し、挿苗前には登録農薬を用いて
苗を消毒します。

●病気の特徴

病気は苗床、本ぼ、イモ貯蔵中に発生し、
病徴は葉、茎、イモに現れ、茎では病名の由
来となる株の基(もと)が黒く褐色に変色し
ます。また、茎葉の変色、しおれ、枯死が生じ、
イモは栽培・貯蔵中ともなり首側から腐敗し
ます(写真2)。類似する病害もありますが、
基腐病の特徴は、①病変部に微小な黒粒の発
生(写真3)、②株元からの腐敗、③イモの
なり首側からやや硬い腐敗です。本病の発生
がないか観察し、疑わしい症状が見られたら
普及センターまでご連絡ください。



バイオスティミュラント資材は農薬にも肥料にも該当しない新たな生産資材です。

昨今の気候変動の影響により、生産現場でもバイオスティミュラント資材への注目が高まっています。これを受けて、令和七年五月に、農林水産省が「バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン」を制定しました。

本ガイドラインでは、バイオスティミュラント資材は、「農作物又は土壌に施すことで農作物やその周りの土壌が元々持つ機能を補助する資材（一部抜粋）」と定義しています。多くのバイオスティミュラント資材は、植物や土壌が本来もつ能力を大きく超えたストレスに対する反応を抑制する資材ではありません。また、気象や栽培条件、使用状況によっては資材の持つ効果が発揮されないことがあります。

現時点では資材の施用方法や効果等で知見が不十分なものも多く、当該資材の作用機作や対象作物での試験事例などをメーカーに十分に確認の上、慎重に経営に導入する必要があります。



令和七年産の水稲種子は、例年よりも休眠がやや深い傾向にあります。こまめに種子の状態を確認しながら、浸種日数を通常より一日程度長くしましょう。水温は10～15℃が適します。浸種を延長した上で、ハト胸状態（写真）となるまで催芽を継続してください。ただし、催芽期間の延長は保温中の病害（もみ枯細菌病など）の危険が高まるため注意が必要です。



出穂時期には斑点米カメムシ類の防除を行います。斑点米カメムシ類は、水稲の穂を吸汁加害することで減収や等級低下を招きます。なかでも、近年はイネカメムシの発生が増加傾向にあります。イネカメムシは出穂直後の穂を好むため、集中して加害を受けると著しい不稔が発生し、大幅な減収に繋がります。そのため、①出穂期※頃【不稔防止】および②出穂期8日後【斑点米軽減】の2回の薬剤防除が効果的です。また、その他の斑点米カメムシ類の水田内への飛来を防ぐため、出穂する2週間前には水田周辺を除草しましょう。

※出穂期…ほ場全体の4～5割の穂が出た日



三月から四月にかけては晩霜害に注意が必要です。ナシでは一般的に、18時に8℃、21時に4℃になると霜害の危険があると言われていますが、低温耐性は生育ステージにより異なります（表）。気象情報に注意し、事前対策に取り組んでください。

事前対策として、①多目的防災網の利用、②燃焼法、③送風法、④地表面管理が挙げられます。多目的防災網は開花前に展開し、サイドを開放して晩霜に備えます。燃焼法では燃焼資材等を事前に準備し、0℃に下がった時点を目安に点火します。園地は除草してマルチは行わないことで、日射により地温が高まるようにします。

表 ナシの生育ステージ別安全限界温度（℃）

発芽期	花蕾露出始期～ 花蕾露出期	花弁露出始期～ 花弁白色期	開花直前 ～満開期	幼果期
- 3.6	- 2.9	- 1.8	- 1.3	- 1.3

※果樹の凍霜害危険度推定シート（福島県農業総合センター果樹研究所作成）より引用
※安全限界温度は、この温度に1時間遭遇した場合、わずかでも障害が発生するおそれがある温度である。



コギクの開花遅延発生要因とその暫定的な対策について

昨今の気候変動に伴う高温の影響で、夏秋コギクの開花遅延やバラツキが需要期出荷の最大の課題となっています。コギクは葉で温度や日長を認識します。コギクの高温感受性は、夜間から明け方にかけて最大化し、特に花芽の生長点肥大期、小花形成期に夜間から明け方に25℃以上の高温にさらされると開花遅延が発生することが分かっています（電照栽培の場合、消灯後概ね14～21日後）。

現時点で確実な高温対策は確立されていませんが、高温に強いとされる品種（県園芸研究所HPの研究成果等を参照）の作付けと基本的な栽培技術（健全な苗の適期定植、病害虫防除）の徹底と併せて、葉の夜温を上げにくくするための栽培管理（表）を実践することで、開花遅延の影響を減らすことができるかと推測されます。なお、別表に記載した技術は検証・実証が必要な技術も含まれています。

表 葉の夜温を上げにくくするための栽培管理（コギク）

	目 的	具体的な技術
1	風通しの確保	下葉の除去、畝間隔、栽植密度、仕立て本数等の見直し
2	蓄熱（夜間の放射熱）の抑制	白黒ダブルマルチ等地温抑制が期待できるマルチの使用と通路のリビングマルチや白色防草シートの展張等による地温上昇の抑制
		西日を遮り、半日陰となるほ場の選定や環境づくり（ほ場西側へのソルゴーの播種など）
		遮光ネットの展張（想定時期：電照消灯直後～21日後まで）
		フラワーネット支柱への耐熱塗料塗布
3	気化熱の活用	夕方から夜間（～9時まで）にかけての防除の実施
		夕方から夜間（～9時まで）又は夜明け前のスプリンクラー散水等による植物体の冷却、通路かん水の実施

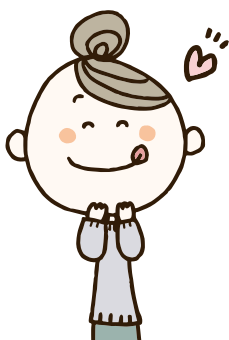


6次化商品コンテスト受賞商品の紹介

農業者が自ら生産した農産物を原料として、加工・販売している商品を対象とした「令和七年度いばらき農の6次化商品コンテスト」が開催されました。今年度は県内各地の特産品を使った菓子を中心に、計12点が出品されました。

管内からは、Sumiya（石岡市）が出品した「あげもちギフトBOX」が金賞（茨城県知事賞）を受賞しました。また、かつらぎ苺園（石岡市）が出品した「Kome &」米粉のパウンドケーキ（いちご）が奨励賞を受賞しました。原料の特長を活かした商品性、食味や包装デザイン、衛生管理方法等が評価され、受賞することができました。

今後普及センターでは6次産業化による農業経営体の所得向上を目指し、継続した支援を実施していきます。



【Kome &】米粉のパウンドケーキ（いちご）



あげもちギフトBOX

農業三士 認定者・退任者の紹介

令和七年七月十一日に石岡市久家泰永氏が農業経営士として茨城県知事の認定を受けました。

農業経営士

石岡市 久家 泰永 氏 果樹(ブドウ)



180aの規模でブドウを生産しており、その9割を施設で栽培しています。消費者のニーズに寄り添った品種構成を工夫し、すべて直売で販売。後継者の育成や新規就農者の独立支援にも力を入れ、地域農業の担い手として活躍されています。

◆ありがとうございました◆

今年度5名の方が退任されました。

地域農業の振興にご協力・ご尽力いただきました。ありがとうございます。

農業経営士

石岡市 原田 通弘 氏

かすみがうら市 飯田 勝 氏

かすみがうら市 市川 浩文 氏

女性農業士

土浦市 小林 弘美 氏

青年農業士

土浦市 荒井 弘 氏

○アグリライフセミナーの紹介

当部門では女性農業者向けに、経営力アップや交流を目的とした学習会及び交流会として「アグリライフセミナー」を開催しています。

今年度は6次産業化の事例調査として千葉県の梨の生産法人の視察研修や、女性農業士会との交流を行いました。また、臨時講座として農業簿記支援ソフトを用いた簿記講座を開催しました。今後も先進的な女性経営者の講話や、地域の女性農業者同士の意見交換の場としていきます。

アグリライフセミナーでは受講生を募集しています。講座にご興味がありましたら、お気軽にご連絡ください。



○農業学園の紹介

当部門では、新規就農者や独立就農に向けて研修中の方を対象に、農業経営に関する基礎的な知識・技術の習得、仲間づくりを目的とした「農業学園」を開催しています。

今年度は、稲敷地域・つくば地域と合同で六月から二月まで全九回の講座を開催しました。県内の先進農家の視察や、専門家の講師をお招きしての講義など様々な講座を実施し、沢山の受講生にご参加いただきました。受講生同士の情報交換や交流の場にもなっております。

当部門では、農業学園生を募集しています。ご興味ありましたら、お気軽にご連絡ください。

令和7年度 農業学園開催内容

	開催日	講座名
第1回	6月24日	病虫害防除講座
第2回	7月30日	雑草対策講座
第3回	9月24日	高温対策講座
第4回	10月3日	販売戦略講座
第5回	10月30日	先進農家経営講座
第6回	11月27日	土壌物理性診断講座
第7回	12月17日	農業経営講座
第8回	1月16日	県南ブロックプロジェクト発表会
第9回	2月20日	土壌化学性基礎講座